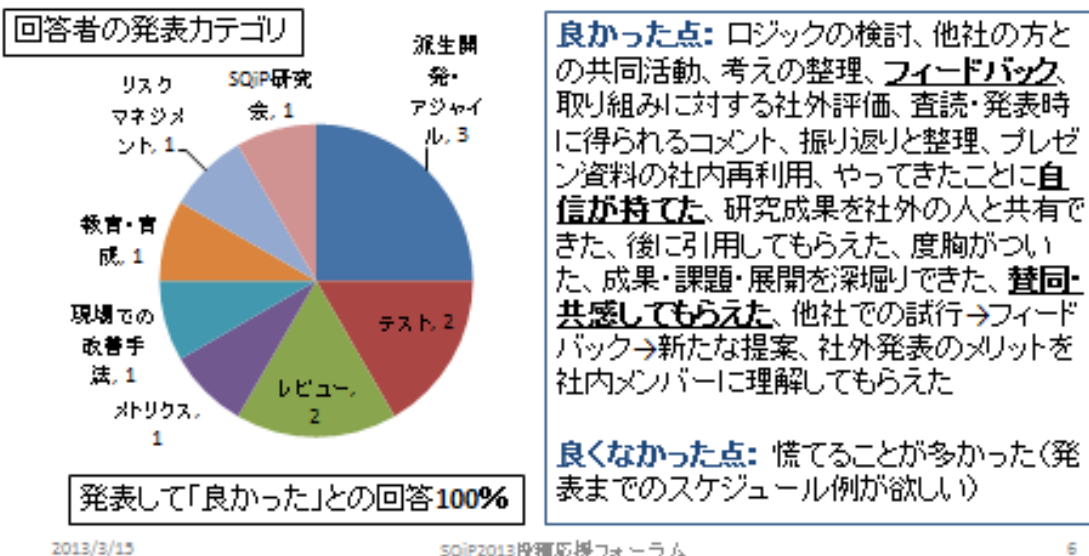


# 発表者アンケート集計結果

過去の発表者48名を対象にアンケート調査を実施(2013年3月)し、12名から回答あり(回答率25%)



## 【発表の動機】

- 論文のブラッシュアップ、完成度を高める。社外の反応から、自分が気づかない改善ポイントを見つけたい(フィードバック)。スキル向上。腕試し。
  - 社内に活動をアピールするため。社内で自分や活動を認めてもらうために社外実績は有効。
  - 自分(達)の活動に自信や誇りを持つことができ、社内の活性化につながると考えた。
  - 社外に活動やツールなどをアピールしたい。
- SQiP 研究会で良い研究を行うことができたので、多くの人に知ってもらいたい。  
自分の発表内容を、現場で試してほしい。
- 社内支援者のバックアップ、上司等からの薦め
  - 活動成果の社外発信は役割の1つ

### 【障害と克服法】

障 害	克服法
共著者とのチームビルディング	1人が率先してたたき台を作成し、それをもとに議論をするなど、効率化をはかる。
家族の理解	終了後に家族サービス
プレゼンに対する抵抗（苦手意識）	準備と練習
業務と準備との両立	周りや上司のサポート
社内用語	レビュー結果をフィードバックしてギャップを克服
アブストの書き方	経験者を探して学ぶ
論文の構成	Research Question の手法を参考にした
社外発表の承認を得ること	
障害はなかった（5名）	

### 【発表後の変化】

自身の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちが前向きになった。自信が持てるようになった。研究・発表意欲の向上</li> <li>・惰性ではなく、何が必要か、何が求められているのかを考えて行動するようになった</li> <li>・業務の進め方、課題の整理の仕方</li> <li>・活動成果を整理する習慣がついた</li> <li>・文章の分かりやすさを一層意識するようになった</li> <li>・品質向上に対する意識が向上した</li> <li>・スキルアップ</li> </ul>
周りの変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社外から問い合わせを受けるようになった。取材を受けた。他社の人とコネクションが広がった。知らない人から意見を求められるようになった。</li> <li>・社外発表を前向きに検討する管理者の増加</li> <li>・社内協力者とのつながりが強化</li> </ul>
変化なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社外発表を頻繁にしているので特に変わりなし。</li> </ul>

## 【発表を考えている、どうしようかと迷っている皆様へ】

多くの方から、これから発表しようと考えている皆様へ応援メッセージをいただきました。投稿をお悩みの方は、一読してみてください。新たな一歩を踏み出すきっかけとなるのではないのでしょうか。

### ●(株)日立ハイテクソリューションズ 鈴木 孝輔さん

論文作成と聞くと、「アカデミックで実務に役立つのか？」と思われる方もいらっしゃると思います。しかし、実態は全然そうではなく、現場で発生している問題そのものにフォーカスして、個別具体的に検討を重ねることが求められます。

そもそも、自分達が解決したい問題を取り上げるわけですから当然の結果なのですが、それを、論文作成というフレームワークを通すことで、真因を見極め最も効果的な対策を検討できるようになります。

我々エンジニアは手を動かすよりも頭を動かすことで、より労働集約的な仕事の仕方から知識集約的な仕事の仕方へシフトしていかないと、アジアの安価な労働力に負けていくでしょう。

論文作成の活動は、その知識集約的な仕事へシフトするための、1つの方法論です。それも、現場のエンジニアが、明日からでも始めることができるという点が、極めて現実的かつ即効性のある手段だと思っています。

戦略的な方向性は組織のトップが日々考えていることですが、我々エンジニアが現場レベルで組織力を高めるといふ地道な努力が、今後の日本の、世界の中での立ち位置を決定づけていくと感じています。

話が少し大きくなってしまいましたが、要は現場の力で会社を、社会を良くしていこう！そのための1つの方法として、論文作成活動がある、と考えていただけたらと思います。

### ●(株)インテック 相澤 武さん

自分の会社では当たり前のことだと思っていなくても、他社の方にとっては、新たな気づきとなることもあります。

また、発表の準備をすることで、今まで行ってきた活動の整理にもなります。仮に採択されなくても、査読者から改善点などのコメントも頂けますので、まずはアブストラクトを投稿してみてください。

### ●(株)東芝 中野 隆司さん

社外にて発表したことにより、社外の方からも問い合わせを受けるようになりましたし、社内からもさらに技術やツールの問い合わせを受けるようになりました。

### ●富士通エフ・アイ・ピー(株) 宮出 克巳さん

あまり固く考えずに、気楽に投稿・発表されることをお奨めします。

●(株)デンソークリエイト 竹下 千晶さん

発表資料の作成等の準備から発表まで、大変には違いないですが、間違いなく 1 つの成果として残るものができる、達成感も得られると思います。

また、自分や自社、やってきたことを客観的に見られるよい機会だと思います。

●三菱電機(株) 細谷 泰夫さん

アウトプットを出すことによって変わることは、得られるインプットの質が格段に良くなることだと思います。それは自分自身のアンテナが鋭くなったり、他の方との議論によるところが大きいと思います。

●(株)サンモアテック 高橋 実雄さん

今回の発表を通して、自分や自社の活動を世間に発表することは、とても尊いことだと気づくことができました。発表前も今も、目の前の業務に日々追われがちでしたが、発表に値する活動ができたなら、また発表したいと思います。皆さんもいかがでしょうか。

●オムロン(株) 田中 桂三さん

ソフトウェア品質技術は、奥が深くかつまだ発展途上段階だと思います。その技術を高めるためには、皆さんの知恵を出し合って切磋琢磨することが大事です。勇気を持って是非発表にチャレンジしてみてください。期待しています。

●ソニー(株) 花原 雪舟さん

社外発表は、おススメです。

社内発表では得られない、緊張感の高い社外発表を経験することは、発表者自身の大きなスキルアップにつながります。チームで臨めば、組織強化にもつなげられます。

今は、「情報の発信者に情報が集まる時代」です。これまでに多くのフィードバックや提案を頂くことで実証できています。

是非、社外発表にチャレンジし、社内では得られない反応や変化を楽しんでください。

●初めてだととても苦労しますが、それ以上におつりがあったと感じました。(匿名希望)

●研究したことや工夫したことを論文にまとめて世に残していきましょう。

論文を読んだ人、発表を聞いた人、多くの人に影響を与えていきましょう。

(TIS(株)匿名希望)

●社外に共有できるネタ(素材)があるなら是非発表した方がよいと思います。

文章作成能力向上など自分自身のスキルアップにもつながると思います。(匿名希望)